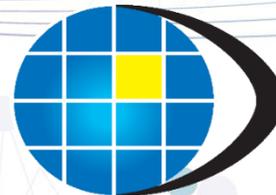


# Femtetメールマガジン 2024/10/24号コラム

モデルデータベースに  
汎用デバイスモデルを登録して  
基板上に配置したい



**Femtet**  
Computer Aided Engineering System  
Murata Software Co., Ltd.

# モデルデータベースを使ってみよう！

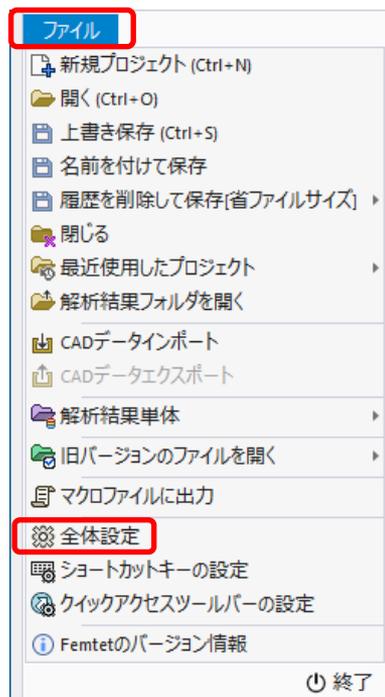
- モデルデータベース（以降モデルDBと表記）を使うと以下のようなメリットがあります。



- よく解析する汎用部品をモデルDBへ登録しておくと毎回作成する必要がありません。
- モデルDBファイルを共通ドライブなどに保存することでチーム間で共有することができます。
- 予め材料、ボディ属性、境界条件を設定することでインポート時にも反映済みとなります。

# モデルDBを使用するための準備

ファイルメニュー ⇒ 「全体設定」ボタンをクリックします。  
「データベース」タブの各データベースの保存先を指定します。



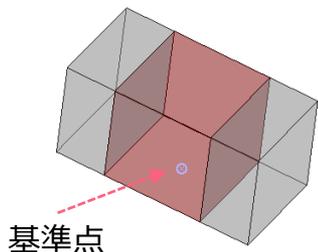
保存先をネットワークドライブ上にする  
ことでDBをチーム  
で利用できます。



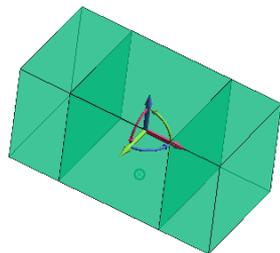
# モデルDBにモデルを登録

モデルDBに登録したい部品モデルを作成し、その部品を構成する全てのボディを選択します。  
「モデル」タブ⇒「モデル」グループ⇒「モデルデータベースに登録」メニューを実行するとプロジェクトツリーの「ModelDB」タブにデータが登録されます。

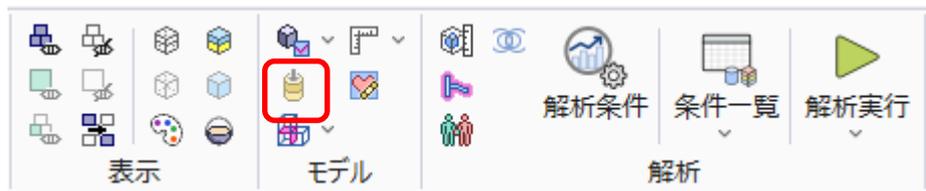
## ①モデル作成



## ②全ボディ選択

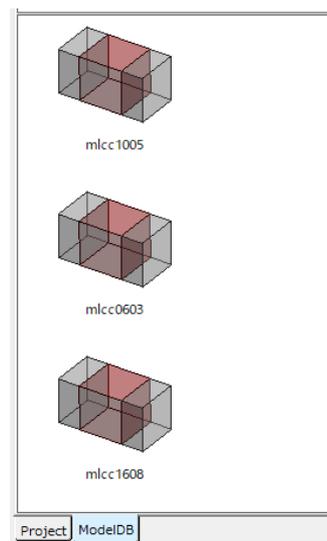


## ③モデルDBに登録ボタンをクリック



## ④モデルDBツリーに登録される

※登録時に分かりやすい名前を付けます。

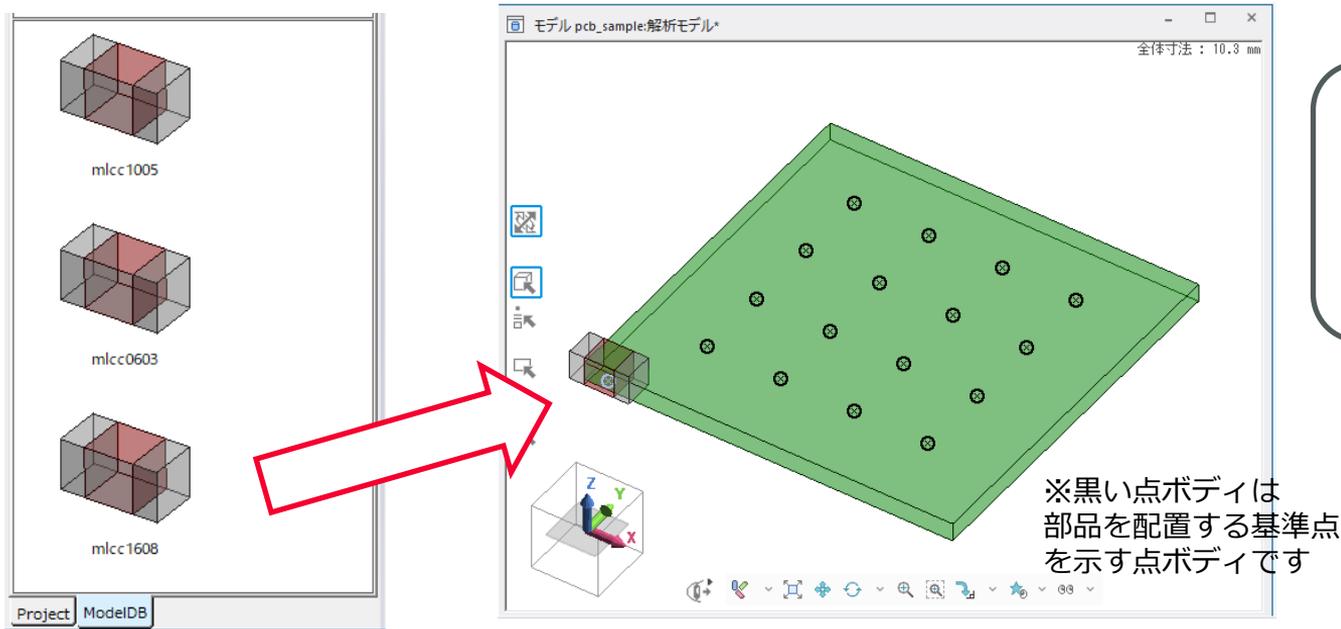


モデル内に基準点を点ボディで作成しておくことでインポート後の移動が楽になります。



# モデルDBに登録した部品をインポート

新規にプロジェクトを作成し、プロジェクトツリーを「ModelDB」タブに切り替え。  
使用したいデータの画像を選択しモデル画面上にドラッグ&ドロップします。

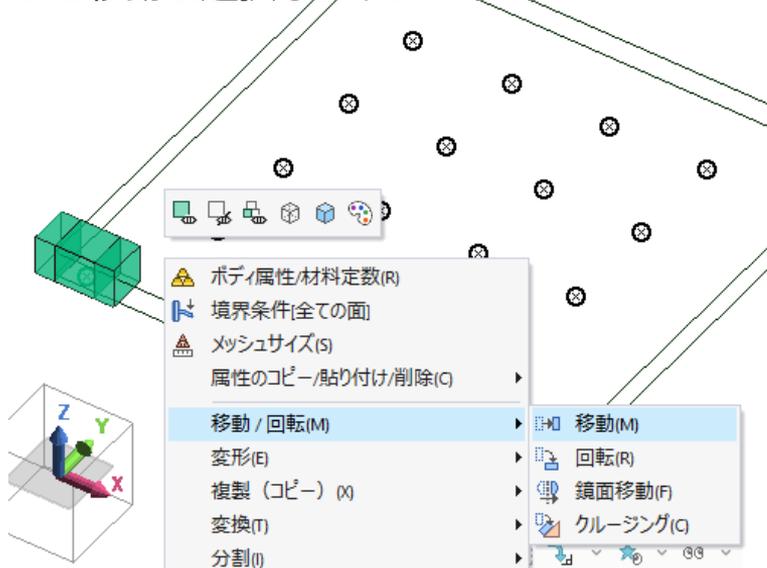


次のスライドではDBから  
インポートした部品を所  
望の位置に移動する手順  
例を示します。

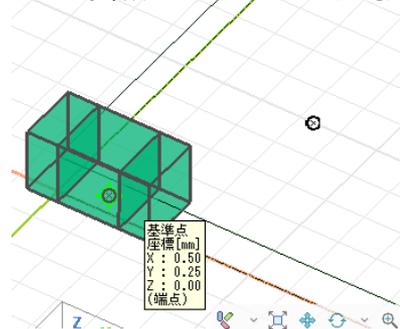


# インポートした部品の変動

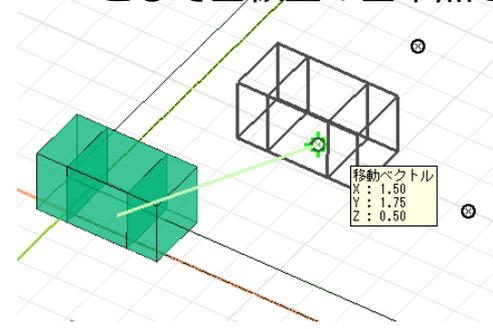
①移動したい部品を構成する全ボディを選択し、右クリックで移動/回転メニューから移動を選択します。



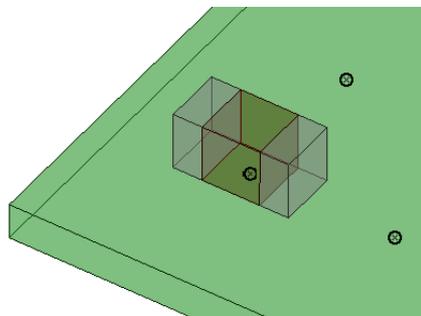
②基準点として部品ボディの基準点をマウスで選択



③次に移動ベクトルの先端点として基板上の基準点を選択



④移動終了

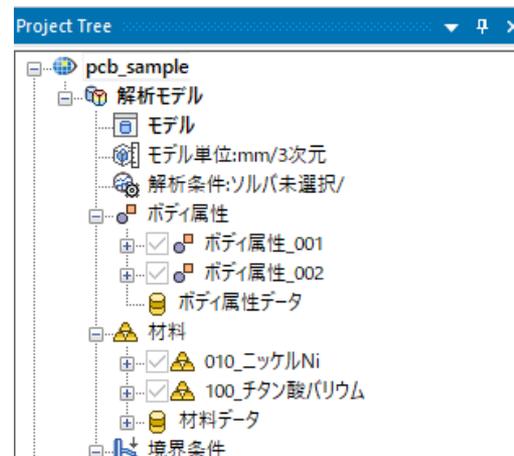
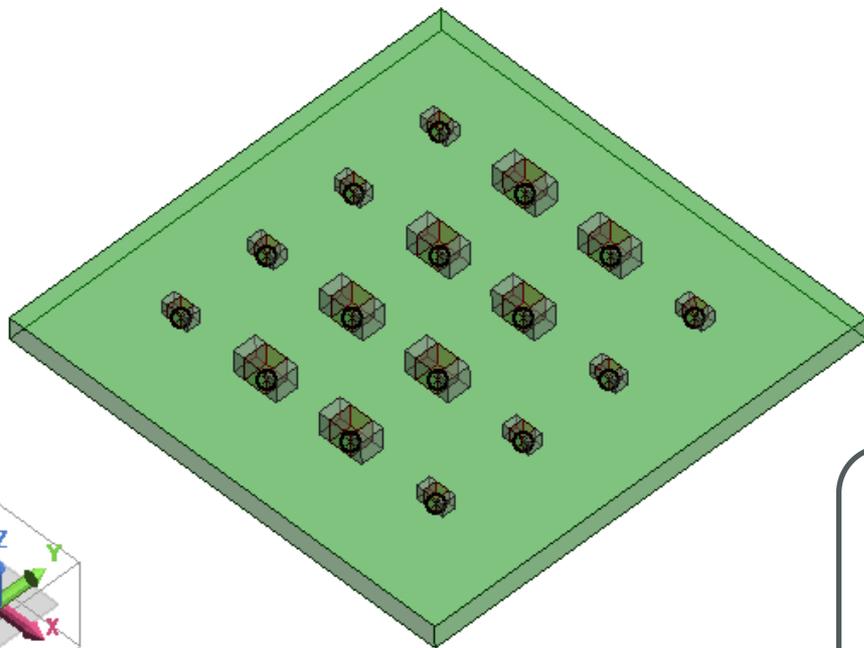


モデルDBの基準点、インポート側のモデルの基準点の点ボディがあるとインポート後の移動がとても楽になります。

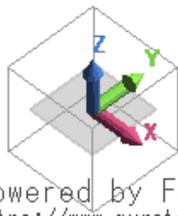


# インポート例

全体寸法 : 10 mm



モデルDB登録時にボディ属性や材料定数を設定しておく、インポート後もその設定が引き継がれます



Powered by Femtet  
<https://www.muratasoftware.com/>

モデルDBをぜひ有効に  
活用してください！

